

Leaders & Management



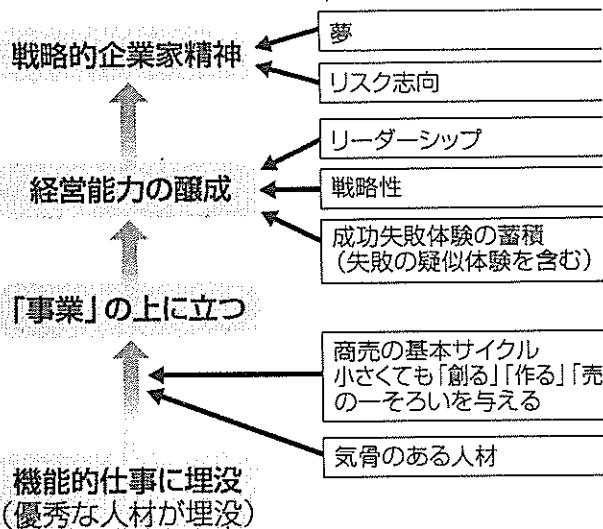
政治学者、エコノミストらと『対立か協調か』(中央公論新社)を出版し、講演活動などで来日。日本政治研究者、エスラ・ボーゲル氏の息子で、日本の高校

「対立か協調か」 多国間の軸へ

ステイブリン・ボーゲル氏
(カリフォルニア大バークリー校政治学準教授)
を卒業し、バークリー校政治学博士。

「日米関係に携わるものは、まず、サンフランシスコ体制が50年も続いた不思議さに驚くべきです。体制の柱は①米国が日本を守るかわりに日本は自衛以

経営パワーを高めるプロセス



「経営パワーの危機」(日本経済新聞社)から抜粋

The Asahi Sh

このような環境を与えられた人材が、さらに経営能力を高めていくためには、次の3点の心構えが欠かせない。

①短期的な問題に目を奪われすぎず、先を読む「リーダーシップ」を発揮し、事業の次の一手を考える。

②自分の組織能力の限界を知り、勝ち戦を収められる場を選ぶ。つまり、「絞りと集中」の戦略性を頭にたたき込む。

③それでも起きる失敗の体験をもとに、経営者としての「勘」を研ぎ澄まし、経営のメカニズムを身につける。

「潜んでいるはずだ。たとえば、経営者の視点から仕事を点検し、商売全体を見渡した行動を取るようになる。その結果に、自らの尺度を持って、いつも成功か失敗かの評価を下す。経営判断力を磨くための疑似体験は、どんな立場でも実践できる。

自らをストレッチする(引張り上げる)ことで、知らず知らずに閉じこもっていた殻を破り、飛躍の機会を見つけ出す。「頼りになる奴」をめざして、そんなチャンスに飛び込む心構えは、常に「オン」にしておこう、と気持ちを新たにしたい。



外の軍備を持たない②米国は日本に基地を置く③日本は重要な外交政策については西側につく、の三つだと思ふ。維持されたのは、お互いに得るところがあったからに過ぎません」

「これからの10年は、過去50年と違う三つの動きが顕著になるでしょう。安保体制ではあつれきが増え、逆に通商問題では摩擦が減り、そして日米関係はより不安定になります」

「注意してほしいのは、日米関係の不安定化は、関係悪化ではないということ。ただ、サンフランシスコ体制の枠内で解決できない問題が増えるのです。京都議定書のように日本が米国と違う態度を示し、多国間の軸で考えるようになる。日米間もメディア、NGO、市民レベルの付き合いが深まり、軍事力や通商力が通じない分野での課題が増える。軍事力はNGO間の交渉では無力ですから」

「サンフランシスコ体制は必ず崩れます。だから、準備をしておけ、という事です。よく、日米関係は米英関係のように親密度を増すべきだという意見がありますが、私は失のび

希望退職が 経営を弱体化



78年に会社設立。日本の労働法や労務管理に精通。2日、日本外国特派員協会に講演した。

トーマス・J・ネビンス氏 (人材コンサルタント)

「語られることは少ないが、日本経済の弱さの最大の要因は、高額の退職金で退職者を募る希望退職制度にある。金額を決めるのは経営陣。労働法に規定があるわけでも、労働基準局の指導でもない。この制度で、最も優秀な社員が高い退職金とともに会社を去り、社の財政負担は重くなる。経営陣も労働組合も、この制度が会社の将来、ひいては自分の職を危うくすると思えば、続けないだろ」

benlish

仕事、Enjoy

アメリカ人は「Enjoy」という言葉を連発する。この表現は、日本人の考えるEnjoy(楽しむ)とはちょっと違う。

アメリカにMBA留学中、スイミングスクールに行く子どもにお母さんが「Enjoy!」と言って送り出すのを見たことがある。このEnjoyには「あなたにとっていいことも悪いこともあるかもしれない。でもそんな体験の全部をひっくるめて楽しんじゃいなさい」というような意味が含まれている。

アメリカでは、オフィスでも「I enjoyed this project(このプロジェクト楽しかったわ)」などと使う。仕事も楽しいか、楽しくないかが重要なのだ。

一見おもしろく事でも、「That's joying it(いいでるわ)」という。これに対して、仕事は「boring(事)」と言う。日本では「楽しむ」を聞くと、ちょっと仕事には向かないかもしれない。耐「努力」の文その日本から、外に送り出したのら上は72歳まで。わらず、みんなに声をかけて見送つ(留学図書館代